

第6学年国語科学習指導案

1. 単元名

意見文リレー「テーマを決めて意見を交えてつないで考えよう」

学習材 朝日新聞「声」（若い世代）1月12日（土）朝刊「働くって？」※1

東京書籍6年「新聞の投書を読み比べよう」※2

教育出版6年下「ぼくの世界、君の世界」（西研さんの「心の世界」の伝え方）※3

2. 単元の目標

（1）国語科としての目標

○友達と意見をつないで考えを深めることを目的として、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使う。〔知識及び技能（1）ア・オ・カ〕

○テーマについての意見と自分の考えを比べて、自分の経験や事実に基づいて具体的に書いたり、書き方を工夫したりする。〔思考力、判断力、表現力等 B 書くことイ・ウ〕

（2）汎用的スキル

○自分の意見を明確に伝えるために、自分の主張や根拠をどのように構成して論を進めるか考えて書く。〔批判的・論理的思考力〕

（3）態度・価値

○テーマについて、友達の考えのよいところや自分の考えと違うところを見つけて意見を伝え合う。

〔問題発見力・問題解決力〕〔他者に対する受容・共感・敬意〕

3. 児童の実態

本学級の児童が、授業で意見文を書いたのは、5年生のときに「グループ意見文」の1回だけである。この単元では、学級の総合的な学習の時間として取り組むものの意見が3つに分かれたため、同じ意見をもつ仲間が4名程度のグループになって意見を整理して説得力のある文章を書くことを目指した。後期実習生を審査員と、児童の中からも中立な意見の児童を審査員にして、得点方式で競った。最も得点が高い意見文を書いたグループの取り組みが決まるとあって、グループ内での意見交流は活発で意見文も説得力を出すような書き方の工夫が見られた。しかし、この単元では教師が示したモデルとなる文が参考になっていた。書き方として学習した点は、説得力を持たせるためには、自分の主張のよさを強調すること、また自分の主張だけでなく他者や別の見方のよさも受容して意見をまとめることであった。その点は、6年次のパネルディスカッションの学習でも生きていた。

本単元では、意見を受容し発展させるという意見の表現の仕方を学ぶ。例えば、新聞の投書である。投書ではあるテーマについて賛成や共感、反対（批判）や反感等をつないで、書き手や読み手の考えを深めさせたり、そのテーマに関心を向けさせたりする機能がある。そのような、書き手も読み手も考えが深まるような意見をつないでいく意見文が書けることを期待している。

4. 単元について

（1）教科から見た特性

意見をつないでいくので、単元名は、「意見文リレー」とした。意見をつないでいくためには、他者の意見に対して自分の立場を明確にすること、他者の意見の主張部分を見つけること、そのテーマについて自分の経験や事実と関連させて考えることが必要な技能や思考だと考える。

そこで、実際の投書※1を読み、4つある文章から自分が賛成や反対の意見を述べられるものを選択して自分の意見を書くという学習に取り組む。「働くって？」というテーマで難易度は高いが、意見を述べるはじめの一歩として、賛成・反対の立場に立つことが大切であることに気づかせたい。次に、教科書にある投書※2を参考にして、どのように他者の意見に対して自分の意見をつないでいるのかを学習する。テーマは、高校野球のピッチャーの球数についての意見をきっかけにスポーツの在り方、人間性の成長まで話が発展していく。このような意見文リレーができるようになることを目指し単元を設定した。

（2）汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

なぜ書くのか。意見は書かずともスピーチでも表現できる。本単元では、他者の意見を受容するという点で何度も読み返すという行為が必要だろう。そのためには、文章として残っていたほうがよい。また、「意見文」がリレーのバトンとなる。そのバトンは書き手から次の書き手だけに渡るのではなく、その他大勢（新聞では不特定

多数の読者)にも読まれ考えてもらう「もの」(学習材)になる。だから、書くのである。

本単元は、書くことの中に、読むことを取り入れている。「ぼくの世界、君の世界」※3は、「心の世界」という難しい内容について、児童にも分かりやすい事例を根拠にして述べている。これは「論の進め方」を学ぶことができる。と考える。「論の進め方」については、読むことの指導事項「ウ目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。」とある。つまり、筆者は自分の結論をどのような事例を根拠として挙げて分かりやすく伝えようとしているのかということを読み取ることが、児童の学びを発展させることになる。と考える。このような「論の進め方」は、意見文を書くことにもつながる学びと捉え、本文を「意見文リレー」の単元に組み入れている。

4. 単元の学習指導計画(全12時間+モジュールの時間4回程度)

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する手だて
第1次 (3時間)	・「働くって？」について自分の考えをもった上で、※1を読み、自分が賛成・共感や反対・反感をもった文章について意見を書く。(「意見文リレー」①)	○他者に対する受容・共感・敬意 ○批判的思考力	○多様な視点から考える必要のあるテーマの設定 ○解決したい、よりよくしたいという場の設定
第2次 (7時間)	・※2を読み、テーマがどのように変容しているかを読み取り、※2の続きの意見文を書く②(「意見文リレー」②) ・「いい意見文の条件」を整理する。 ・自分たちでテーマを決めて分担する。 ○意見文を書く活動と「ぼくの世界、君の世界」を読む活動を交互に行う。(6-10時間) 【書く】 ・意見文を書く根拠を見つける。(取材) 【読む】 ・自分の「心の世界」と筆者の考える「心の世界」を比べて読む。 【書く】 ・根拠の並び替えや書き出しを考え、文章全体を構成する。児童によって書き始める。(構成・記述)意見文を書く③ 【読む】 ・自分と筆者の「心の世界」を比べ、筆者がどのような論の進め方で考えを述べているか読む。 【第10時】 ・論の進め方を考えて、意見文を書いたり書き直したりする。 ・「いい意見文の条件」を基に自分の意見文を推敲する。	○他者に対する受容・共感・敬意 ○批判的・論理的思考力 ○問題発見力 ○問題解決力	○多様な視点から考える必要のあるテーマの設定 ○解決したい、よりよくしたいという場の設定
第2次 (2時間)	・朝日新聞2月9日投書の「雪」を読み、自分の「雪」観と比べ、自分が共感したり反感をもったりした投書に対して意見を書く④(「意見文リレー」③)。 ・学級の意見文(意見文を書く③)を読み合い、自分がつながたい意見文を選び、その意見に対して、自分の意見を書く(「意見文リレー」④)。	○他者に対する受容・共感・敬意 ○批判的・論理的思考力 ○問題発見力 ○問題解決力	○「一人一人違う世界」を体感する。(「ぼくの世界、君の世界」の活用)

テーマは、「雪」(朝日新聞)、「あだ名」、「AI」、「アウトドア・インドア」、「オリンピック」、「天国」

5. 本時の展開（9時間目／12時間＋α）

(1) ねらい

○自分の意見を明確に伝えるために、自分の主張や根拠をどのように述べているかを読み取り、自分の論の進め方に生かす。

(2) 展開

○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
○前時の学習の振り返りと本時の活動を確認する。 T 意見文は順調に書き進んでいますか。 ・ 根拠と自分の考えをつなげるのが難しい。 T みんなに意見文の難しさを聞いた時に、根拠は書けても文章にするのが難しいという回答が目立ちました。そこで、意見文とは少し違いますが、「ぼくの世界、君の世界」から、自分の考えを筆者はどのように根拠と結びつけて述べているのか読み取ってみましょう。	◇書くことの進み具合に個人差が出てしまうことは許容する。（単元の構成上問題ない。） ◇第7時に、本文を読み取る目的として、①考えの述べ方を読む、②「心の世界」について読むがあることを示した。「どちらが簡単か。」という発問に対し、②を選択したので、要旨を読んだ後に①を読むという単元展開になっている。
西研さんから、自分の考えの述べ方を学ぼう	
○要旨を整理し、どのような具体例（事例や根拠）を示しているか、どのような論の進め方になっているかを読み取る。 T みんなが書いた西研さんの「心の世界」についての考えは、筆者の○○というね。 ・ 要旨です。 T その要旨の一覧表を見て、西研さんは、「心の世界」についてどんな考えなのですか。 ・ 「心の世界」は一人一人ちがう。 ・ だから、自分の考えを伝えようと努力しなければならない。 T それは、本文のどの段落に書いてあるかな。 ・ ②③、②④段落 T では、みんなが考えた「いい意見文の条件」として出した根拠は、本文ではどんなことだろう。 ・ チョコレートの甘さをどう感じるかは一人一人ちがう。 ・ お腹が痛いという感覚は経験があっても、本当の痛みは自分でなければわからない。 ・ アニメの具体例では、他人の気持ちは分からないけど、「言葉のキャッチボール」が大切と言っている。 ○「言葉のキャッチボール」の経験が「ある」人が経験を語る。 ○本時を振り返り、自分の考えの述べ方をまとめる。 ・ 学べた事は、具体例や根拠を多く出し、そこから、反対意見なども予想して、否定していた。やはり、根拠が多い方がわかりやすいし、構成がちゃんとしていると読みやすいと学べた。 ・ 経験を文章の中に入れて、説得力が上がる。経験と根拠は同じように見えて、違うことがわかった。	◇西さんは、どのように自分と反対の考え方を述べているか考えて読む ・ チョコレートの甘さについての感じ方（⑦⑧⑨⑩段落） ・ お腹が痛い感じ方（⑪段落） →自分の「うすい暗い電球事件」につなげている。 →p.42⑮「つまり、人と人は、永遠に理解し合えないのだろうか。」 →⑭そうではない、とぼくは思う。 ◇「いい意見文の条件」の観点を想起させる ① 自分の主張はあやふやにしない。 ② 初めて知る人のために現状を説明する。 ③ 二つを比べる。（Aには～のよさがある。しかし、自分はBである。） ④ 反論を予想しておく。 ⑤ 「序論、本論、結論」が構成されている。 ⑥ 根拠は、複数あるとよい。 ◆自分の経験と事例を結び付けることや自分の考えとは異なる根拠を先に挙げることの効果について読み取っている。（発言・ノート）